

# 経営比較分析表（平成30年度決算）

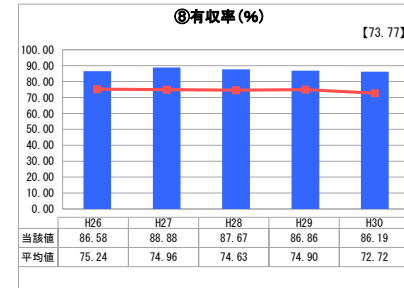
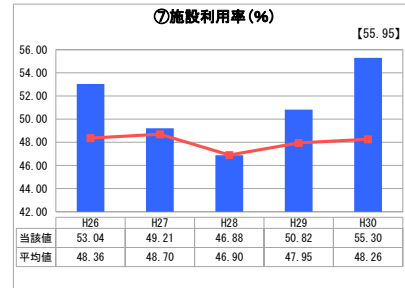
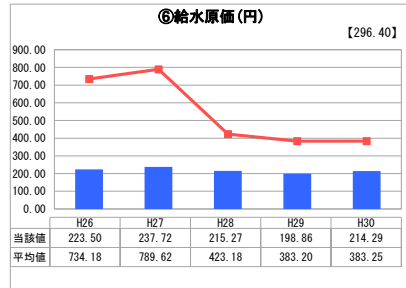
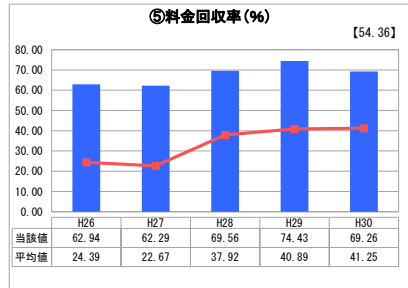
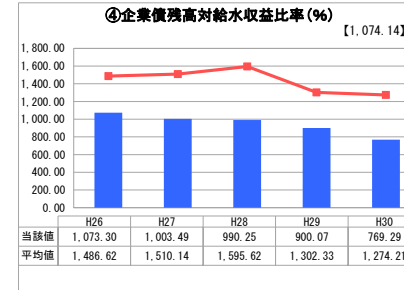
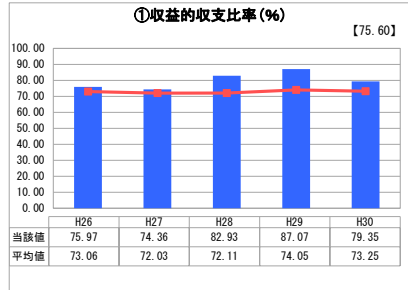
山形県 小国町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり客塵料金(円)	
-	該当数値なし	10.11	3,326	

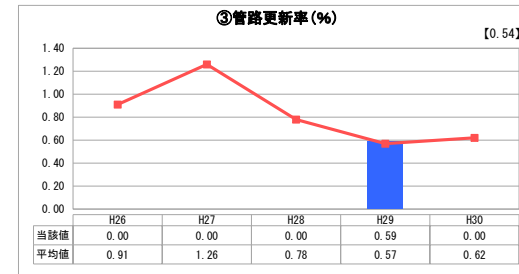
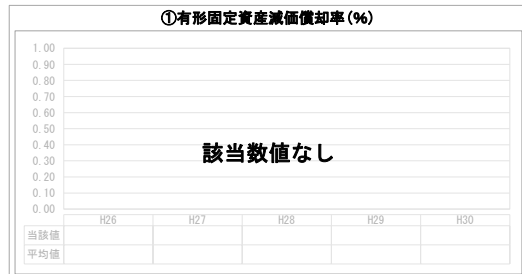
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
7,612	737.56	10.32
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
759	1.80	421.67

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成30年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

〈収益的分析〉  
収益的収支比率は施設維持管理に係る突発的な修繕料の多寡により変動するものの、平成30年度は若干ではあるが使用料収入増に対し支出減であったため平均を上回っている。また、料金回収率は平均を大幅に上回り、給水原価が平均値を大幅に下回っていることから、整備に係る費用回収は図られている。有収率をみても86.2%と高い収益率がある。

〈企業債残高の分析〉  
平成11年度以降企業債の借入が無かったため、償還分企業債残高対給水収益比率は年々低くなっているが、平成29年度に施設更新のため企業債の借入を行ったため増加が見込まれる。今後は計画的な施設更新が必要である。

〈施設利用率の分析〉  
計画当初の給水人口は1,720人であったが、現在の給水人口は759人と、当初計画から大幅に減少し、近年の施設利用率の著しい減少の要因と考えられる。今後は現在の給水人口に見合った規模縮小や上水道との統合を検討する必要がある。

〈経営の健全性・効率性について〉  
平成30年度の経営状況は、整備に係る費用回収は図られており、収益的収支比率も安定している。しかし、今後は老朽化や耐用年数経過の設備への更新投資に備え給水収益向上のため料金回収率をさらに上げるための経営努力及び料金改定の検討が必要である。

### 2. 老朽化の状況について

平成25年度以降4年ぶりの更新となっている。また、平均値と比較して更新ペースが遅く、また管路更新率も1%に満たない。  
7つある簡易水道のうち4つで法定耐用年数を過ぎている状況を踏まえると、計画的な設備更新が必要である。

## 全体総括

現在の経営では、現状維持という面では健全・効率的な経営といえるが、将来的な老朽化を考慮すれば、法定耐用年数を超えたものを更新していくため、計画的に更新投資していく必要がある。その経費を賄うため、今後より一層の未収金対策、料金回収率の向上及び料金改定の検討が必要である。